

「社会と情報に関するシンポジウム」の開催にあたって

シンポジウム企画実行委員会 狩野 陽

これは、1991年8月19、20日の両日にわたり、札幌学院大学において行なわれた「社会と情報」を主題とするシンポジウムの記録である。

会合の趣旨は、社会情報学部の発足に際し、現在、科学として形成の途上にある、この学問領域の基本問題について研究者間の自由な検討を積み重ねる試みを始めることであった。この分野に関与する専門研究者が、自らの知見の統一を試み、みずみずしい着想とアイデアを提示して討議し、交流する場とすることが希いであった。そして、社会情報学の領域は、今日、そのような試みを、急務としている。

学問として未だ確定しがたい領域で、資料をまとめ、着想と専攻を越えた展望を論じ合うには、拡声装置を介さず、啓蒙の顧慮なしに思考を語りうる場が希ましい。本シンポジウムは、少数の専門研究者を対象とする討議の場であったが、約四十名の道内外の第一線の社会学者、情報学者、コンピュータ工学者、電子工学者、物理学者、生物学者、心理学者が参集し、終始、活発で熱気に包まれた討議が続いた。

第一日、午後1時50分、開会の導入の後、直ちに福村晃夫教授の報告に入った。情報を問いつつ投影された自筆の軽妙洒脱なイラストは、時に参加者の笑いを誘った。指定討論者の田中譲教授はエージェント概念の曖昧さを衝き、多面的な討議が生じた。コーヒープレイクの後、吉田民人教授が、生命に遡り、人間と生物の営為の基本をなす情報を論じ、本学の伊藤、井上助教授が討論し、論議は拡がり、夕べ遅くペケレット湖園で夕食を共にしながらも論は尽きなかった。第二日朝、田中一教授の報告は、情報とは何かに実質的に答える試みであり、討議が相次ぎ、最後に全体を総括して会合を閉じた。いづれの発言も領域の根底に共通する情報の問題に直面し、解決の発想を伝達する機会となった。

シンポジウム開催を支えた多くの関係者に深く感謝するものである。

■ プログラム内容

第一日目

開会の挨拶 狩野 陽 (札幌学院大学)
 学部長挨拶 田中 一 (札幌学院大学)

講演1 福村晃夫 (中京大学)
 コメンテータ 田中 譲 (北海道大学)

講演2 吉田民人 (東京大学)
 コメンテータ 伊藤 守 (札幌学院大学)
 井上芳保 (札幌学院大学)

第二日目

講演3 田中 一 (札幌学院大学)
 コメンテータ 長田博泰 (北海道大学)

サマリートーク 狩野 陽
 司会 狩野 陽
 田中二郎 (札幌学院大学)
 千葉正喜 (札幌学院大学)
 皆川雅章 (札幌学院大学)